

令和 7 年 3 月 13 日市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。よろしくお願いいたします。今日は発表案件 2 件ですけれども、まず最初に、3 月 9 日に開催されました静岡マラソンについて、一言触れさせていただきます。

今年も、昨年に引き続き好天に恵まれました。大会は無事に終了することができました。大会の当日は、長時間にわたる交通規制を行い、ご不便をおかけしました。沿道住民や商業施設、自治会の皆様、そしてボランティア、警察、陸上競技協会、警備会社、交通業者の方々など、本当にたくさんの方々にご参加、ご協力いただきました。感謝申し上げます。

そして、沿道で応援いただいた市民の皆様にも御礼を申し上げます。静岡マラソンの開催結果ですけれども、フルマラソンで完走された方が 1 万 691 人ということですので、制限時間が 6 時間に緩和された、延長されたことで、前回大会は 89.8%の完走率でしたけれども、今回 93.8%です。ファン・ラン、これは 1,184 人で、ごめんなさい、1,117 人が完走で、94.3%の完走率になっています。

沿道では、いちごをはじめとする、多くの方々に静岡らしい給食、エールを提供していただきまして、本当にありがとうございました。大変好評でした。

もうひとつ、当日ですけど、ランナーお二人の方が一時心肺停止になりました。これは救護所の医師・看護師、あるいはコースを走行していた国土舘大学のモバイル AED 隊、そして静岡市の救急隊、大会休業本部の医師による連携と迅速な対応により一命を取り留めることができました。本当に、ほぼ同時間に、2 人心肺停止になられて大変心配したんですけれども、この関係者の皆様のご努力、ご尽力で救命救急がうまくいって、安全な大会であるということになりました。本当に感謝申し上げます。

来年は 3 月 8 日の日曜日を予定しておりますので、また来年に向けて準備を進めていきたいと思います。

それでは発表案件に移りますが、まず、市民文化会館の再整備事業について、改修内容を決定しましたので、ご報告をいたします。

この会館の改修・耐震補強工事については、2 月 4 日に入札不調になりました。2 月 5 日に市長の臨時会見を行って、次の 4 点を説明しました。

まずは入札価格が予定価格の倍以上で入札不調になったこと、その理由としては建築業界の需給の逼迫が影響しているので、当分の間、当面の間、その状況は変わらないと想定されること。そして、市況が落ち着くまで、耐震補強は行わない、できないというのが実態です。それから、前回発注予算の 161 億円の中で優先的かつ早期に改修が必要な内容を早急に決定するということでした。

今回 4 つの方針を決めて、次の 4 つの方針を決めて改修を実施することにしましたので、その内容をお示しします。この 4 つの大方針ですけど、まず最低限必要な安全性と快適性を確保すること。2 番目は再開館後も施設サービスを維持すること。3 番目、予算の範囲は前回発注予算の約 161 億円の範囲で行うこと。4 番目は再開館時期を遅らせないこと。これは改めて検討したというよりも、2 月 5 日にも同じことを申し上げました。

改修内容ですけども、これは、耐震改修を行わないんですけども、設備機器については 20 年程度で再改修が必要になりますので、まずは概ね 20 年間、これまで通り市民が文化活動ができるレベルの改修工事に限定して行うことにしました。具体的な改修内容ですけども、特定天井工事、大・中ホールにある天井の落下防止装置、及びロビー棟の特定天井の軽量天井化を行って大規模地震による被害を防ぎます。大規模な特定天井対策をやる予定でしたけども、明るいネットを入れて落下防止するという対策にしました。

それから、屋上防水と外壁の改修ですけども、相当経年劣化をしていますので、これを行います。

大・中ホールの座席変更ですけども、この各ホールの座席がいわゆるヘタっているという状態ですので、それからちょっと足元が狭いということもありますので、快適な鑑賞環境にするためにホールの座席を更新します。

それからトイレです。とりわけ洋式化の問題と、女性用のトイレ不足という問題がありますので、この既存トイレの、既設のトイレの洋式化や床壁の更新を行います。それから、各ホール及びロビー棟にトイレを増設して、来館者の利便性を向上します。

設備機器ですが、受変電設備や非常用発電機などを更新して、突然の故障等による休館等を防ぐというものです。事業費については、160 億円の範囲内ということでしたが、今回 80 億円になる見込みです。この 80 億円については、最近の物価高騰、前回の予定価格が倍以上になった時の見積もり、先方からの見積もり額、それを参考にして算定をしましたので、現実性は高いと考えております。今後の事業の進め方ですけども、2025 年度に実施設計を行い、2026 年度から工事を実施する予定です。再開館の時期ですが、これは一部開館については、2028 年 1 月と変わりません。全部の開館時期ですけども、これは 2028 年 12 月を予定していましたが、これは努力をして 2028 年 4 月に前倒し開館をしたいと

考えています。

それから、2025 年度の施設の部分使用ということですが、施設が老朽化していて、特に空調、そういったところに問題があるので、コンサートなんかをやっていて、そのときに空調が壊れましたとか、そういう状態だと催事、催しができない、あるいは中止で迷惑をかけるということがありますので、2025 年 4 月からは全面休館をします。ただ、2025 年度は工事は行われませんので、これについてはこどもの遊び場を部分的に設置したいと思っております。今、旧西河内小学校をこどもの遊び場として使っていただいておりますが、これが 3 月 16 日で閉鎖になります。閉鎖になる理由は、この西河内小学校を 1 年かけて新しくして、2026 年の 4 月から新しい形でこどもの遊び場＋宿泊施設の形で民間事業者の方が運営をしてくださるということが決まりましたので、こういったことで旧西河内小学校は閉鎖になりますけども、こどもの遊び場は閉鎖になりますので、こちらで市民文化会館の会議室等を利用して、こどもの遊び場を設置したいと考えております。具体的には、急遽決めましたので、4 月からすぐ会館というわけにはいかないかもしれませんが、できるだけ早くこどもの遊び場を開館できるようにしていきたいと思っております。

それから、耐震性の問題です。今回、耐震改修をやらないということですが、耐震性についての不安というのはあると思います。今どんな状況にあるかということですが、まず 1997 年度に耐震診断を行いました。その時にはランクⅡというものです。ランクⅡです。耐震ランクは 1 以上、 I_s というのは 1 以上が望ましいんですけども、0.73、0.85 ということで、これですので耐震改修が必要ということになりました。2023 年度に本格的な改修について詳細検討したところ、 I_s 値は総合では 1.01、1.10 と上がりました。ただ、こちらの部分的に見ると、X 方向、大ホールですね。これは 1.03、1.03 とあるんですけども、ホワイエという、ホールの外にある、最初に入ったときに人が入るところですけど、そこがこの 0.57 になっています。中ホールも同じようにこうなっていますので、このホワイエが耐震性が低いので、全体の総合の I_s 値がこのように下がるということになります。したがって、この舞台と客席は I_s 値 1 ありますので、今回改修をしなくても、ここに客席にいる方については、安全性は保たれていると思っております。

もう一つ、問題は特定天井です。天井が落下してくる心配がありましたが、天井については、軽い網をかけて落下防止をしますので、天井の落下についても安全性があるということになります。したがって、再開館後の安全性、この舞台と客席については安全性は確保されていると考えています。

今後の対応ですが、ホワイエですね、これはやはり耐震性が低いので、ホワイエのところというのはいつもいるわけではありません。もう一度申しますと、

入口入ってすぐのガラス張りのところ、そこは壁がありません。柱だけで作られている構造になっているので、どうしても耐震性が弱いので、それについては、いつも人がいる場所ではありませんので、いつもというのは長時間そこにいるわけではありませんので、地震が起きたときはうまく誘導することによって、安全性を確保していきたいと考えております。

以上が、市民文化会館の再整備事業についてです。次、お願いします。

次はナショナルトレーニングセンターの運営の見直しです。民間事業者の皆様から提案を募集しますということですが、清水のナショナルトレーニングセンター、トレセン、トレセンと言っていますけども、ここは天然芝のグラウンド、人工芝コートその他、トレーニングルーム、体育館、宿泊施設、レストランなどがある総合的な施設です。現在、年間 18 万人の、すいません。県内外の皆様にご利用いただいております。一方で、開館から 23 年が経過しましたので、施設の老朽化が顕在化しています。それから宿泊施設があるんですけども、これがいわゆる、相部屋ですね、何となく合宿的な使い方になっていますので、今の時代に合わない、やはり個室がいいということになりますので、とりわけ、ナショナルトレーニングセンターに来られるような競技力の高いトップレベルの選手が相部屋というわけにもなかなかいきませんので、そういった点で課題があります。

そして、施設運営ですけども、指定管理者制度で行っていますが、年間 1.8 億円の指定管理料を支払っています。そこで 2026 年 4 月、来年の 4 月から、次期指定管理期間を迎えます。その時期に合わせて、施設の利用環境の改善を図るとともに、収益性を高めて、市の財政負担を軽減するという、施設環境の改善と収益性の両面からの見直しを行うことにしました。どのような施設整備とサービスを提供すれば、利用者から支持・評価されて、かつ収益が上がる施設になるのか。プロフィットセンターと書いていますけれども、利益が上がる施設ですね、赤字ではなくて黒字、指定管理料をずっと払い続けるというのではなくて、むしろ指定管理料を払わなくても利益が上がるような施設ですね。それにできるようにしたいと思っています。

そのため、民間事業者の皆様から考えやアイデアを提案いただきたいと思っています。市はこの提案をもとに、PFI 方式を含めて、ナショナルトレーニングセンターの新たな管理運営方針を定めて、2026 年度に運営者を公募したいと考えています。2026 年の 4 月からの運営ですけども、ただそれまでに施設整備が全部整うとは限りませんので、今の施設を使いながら新しく施設を増設するとか、そういったことをやっていただくようなことを想定しています。

背景ですけども、2001 年に旧清水市がナショナルトレセンとして開館をしまし

たが、2002 年の日韓ワールドカップではロシア代表が合宿を行いました。現在は日常的な市民利用やプロスポーツ等による合宿、キャンプ、あるいは国内の各種大会でよく利用されています。

それからこの施設ですけれども、図もありますかね。はい、新東名の清水庵原インターチェンジがありますけれども、これから非常に近いところに、車で5分、ちゅ〜るスタジアムも同じく非常に近いところにあります。それから、最近 IAI さんがパラスポーツパークというのをオープンされました。したがって、この辺りは、こういったスポーツの拠点になるということを考えていますが、この場所が、庵原インター、新東名から非常に近いですから、県内あるいは県外、そういったところから来ていただくには十分なアクセス環境があると思っています。

もう一つは、静岡市はプロのスポーツチームはたくさんあります。ホームタウンというわけではないですけれども、連携協定を含めると、清水エスパルス、ベルテックス静岡、静岡ジェード、くふうハヤテベンチャーズ静岡、静岡ブルーレヴズ、シャンソン V マジック、東レアローズ静岡などのチームと連携協定を結んでいますので、こういったスポーツの力を利用して地域経済の活性化に繋がっていきたいと考えています。

課題ですけれども、今、次のような課題がありますが、昨日、外部監査を受け取りましたが、その中でもこのナショナルトレーニングセンターの運営については、課題があるという指摘をいただきました。以前から、そういった指摘をいただいておりますので、監査期間中にナショナルトレーニングセンターをどうするかと考えてきていましたけれども、ちょうど昨日、外部監査でナショナルトレーニングセンターの問題が明らかにされたので、それを受けて今日こういう形で、ナショナルトレーニングセンターの運営方法を変えていくという内容を発表しております。

周りに、もう一度いいでしょうか、さっきの。この辺りですけど、先ほどのこういった施設もそうですし、この辺りは農産物が非常に豊かなところですよ。それから、こちらの先ほどの両河内であるとか、ああいうところでは、ティー・ツーリズムですね、お茶ツーリズムのようなことも非常に盛んになっていますので、海外からのお客様も最近は来ていただいています。そういったことで、このあたりのスポーツ施設と観光施設ですね、これを連携することによって、ナショナルトレーニングセンターというのは、収益が上がる施設に変えられるんではないかと思っています。

それから、先ほどの説明と重複しますけれども、宿泊施設が相部屋で、まず人数が少ない、泊まる人数が少ないということです。それから、駐車スペースが少ない、遠くから来ていただくときに、スポーツ選手が車で来るケースって非常に多い

ので、やはり駐車場スペースはしっかり取った方がいいということですね。それから、天然芝グラウンドが多いわけですが、ここは張り替えがありますので、芝の養生がありますので、一定期間利用できない、その間収益が上がらないという状態になります。やはりこれは人工芝のグラウンドを代替として用意しておかないといけないと思っていますが、今の施設の範囲の中では、それだけのスペースはありません。したがって、他の施設との連携とか新設とか、そういったことも提案をいただいて、現在の運営方法にこだわらないで、新しい形の運営方法を考えて、施設と運営方法を提案していただきたいと思っています。

見直しの基本的な方向性ということですが、まずはプロフィットセンター、運営によって利益を生み出す施設に変えていくと。指定管理料を毎年払い続けるというんじゃなくて、指定管理料を払わないで、むしろ運営によって利益を上げていただくような施設を考えたいと思っています。そのためにも収益性の高い施設、それから地域経済の活性化、これは先ほど申しましたように周りの施設、あるいは地域との連携で観光としての効果、あるいは地域経済の活性化に繋げていきたいということです。

もう一つ、老朽化で施設の改修も必要となっていますので、この施設の改修も、例えば市がこうしたいうのではなくて、こうやったら収益が上がるんじゃないかとか、こうやったらもっと魅力が上がるんじゃないかというような提案をいただきたいと思っています。トレーニングについては、最近、世界的にレベルが相当上がっていますので、ナショナルトレーニングセンターというからには、最先端のスポーツ科学の技術も入れて、その競技力の向上が真に図れるような施設に変えていきたい、トップレベルのアスリートからも支持される施設にしていきたいと思っています。

そのためには、これは市の運営あるいは指定管理者という制度ではない方がよいように思っていますので、民間、どういう形が良いかは民間事業者の方から、まずは提案をいただきたいと思っています。

募集内容ですが、3月14日からヒアリングを開始しますが、提案をいただいて、こんなふうにしたいんだけど、先ほど私が申し上げたようなことについて、自分たちはこんなことをやったらいいんじゃないかと、14日というと明日からですが。いらっしゃいましたら、どんどんお越しいただいて、まずはアイデアを教えてくださいと思います。そのアイデアで、なるほど、だいたいそういうことができそうなのかな、ということの目安をつけて、本格的にこのヒアリングを4月14日から、1ヶ月簡易ヒアリングをやって、詳細ヒアリングを4月14日から1ヶ月間やりたいと思っています。

この辺りで、こういう方法がっていうところが出てくれば、そこで決定をして、

6 月議会に諮って、公募内容を決めたいと、このようなスケジュールを考えております。発表内容は以上です。

◆司会

ありがとうございます。それでは、ただいまの発表案件についてのご質問をお受けしたいと思います。ご質問がある方は、社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。発表案件についてのご質問よろしいでしょうか。

はい、では、幹事社質問に移りたいと思います。本日は、毎日新聞さん、よろしく願いいたします。

◆毎日新聞

はい。毎日新聞です。よろしくお願いします。幹事社からは青葉シンボルロードの再整備について伺います。この件については、2 月の予算案の記者会見のときにも市長からの説明があつて、例えば、出雲大社の参道であつたり、姉妹都市のカンヌのイメージというようなお話はあつたかと思うんですけれども、今日、ちょっと、もう少し先まで何かイメージできることがお聞きできたらと思って質問させていただきます。

静岡市が目指している歩行者優先の中心市街地づくりという観点から、歩行者と車両の共存が必要になると思うんですけれど、再整備にあたっては共存が必要になると思うんですけれど、そのあたりで市長がイメージする像というものを教えていただければと思います。

あと、基本設計費っていうことで予算ありましたけれども、その先、いったいいつ新しい姿に生まれ変わるのかっていう目標時期などが、おおよそあれば教えていただきたいと思います。そのときの会見では、形としては車道と歩道の段差や仕切り何かをなくして、一体的な平面にするというような方針は示されましたけれども、一方、去年 10 月に行われた社会実験では、交通規制に関して不満もあつたというふうに聞いています。それらを解消して、再整備の末に、歩行者が安心して憩い、楽しむことができるようなシンボルロードにするには、シンボルロードと交差する道がたくさんあつて、大きなところでは呉服町通りや両替町通り、その他にも当該のエリアには 6 本交差するのかなと思うんですけれども、そのあたりをどうするのかっていうことであつたり、社会実験の際にもたぶん問題になったと思うんですけれども、事業者の荷下ろしの問題であつたりがあると思うので、この辺り、いったいどういうふうにクリアしていく方法があるのかっていうところをお聞きできればと思います。

よろしくお願いします。

◆市長

はい、ありがとうございます。青葉シンボルロードの再整備ですけども、その前に、静岡の都心のあるべき姿をどう考えるかということですけども、歩行者中心のまちづくりと一言で言っていますけども、もっとその背景には、これから交通体系が相当変わってくると思っています。今までは自分で運転をして来るということが多かったわけですけども、これから自動運転もすぐには始まりませんが、いずれ始まってくる、あるいは小型モビリティだとか、多様な交通手段も出てくると思っていますので、その時はもうまちづくりのあり方もガラッと変わると思っています。

それから、もう一つは、職住近接のまちづくりですけども、議会でも申しましたが、歴史的転換点にあると思っています。静岡のまちづくりですけども、九六ヶ町があって、家康公のまちづくりでできたところですけども、その当時は職住近接の町だったわけです。その後、経済が発展して、職住が離れていったわけですけども、現在、またインターネットであるとか、そういう通信技術の発展あるいは働き方が変わってきて、何も通勤をしなくても仕事ができるということです。そういう状態になってきましたので、再び、1900、ごめんなさい、1600年頃の通りとは言いませんが、また職住近接のまちづくりができるような状態になると思っています。そういった点で、これからのまちの将来像というのをしっかり描いていきたいと思っていますが、その中で青葉のシンボルロードというのは、その一つの象徴になると思っています。

ここは、今、歩道部分といいますか、中の広場部分と、両側の道路は独立した形になっていますし、先ほどおっしゃったように、6本のこの通行道路が交差をしていますので、どちらかという歩行者は外、制限された区間にて、自動車を中心に通っていくような状態になっています。今度これをどう変えていくかということですけども、今度は車の通行はもちろん確保するんですけども、どっちが中心かという、人の歩行であるとか、あるいはそこで滞在するような広場空間ですね、こちらを重視をしていきたいと思っています。

ただ、繰り返しになりますけど、車が通行できないという状態ではなくて、車は少し遠慮しながら通行ができるような状態がいいのではないかなと思っています。先ほどご紹介ありました、出雲大社の参道のところですけども、この青葉シンボルロードほど広いところではありませんが、そこは中央に道路が通っていて、両側が歩道になっているんですけど、段差はありません。

したがって、規制、通行規制をかければ完全に一つの広場になるところですけども、そこで車と人がどう共存しているかということですけども、歩道がないものですから人が歩いているわけです。そこに対して、車が少し遠慮しながら通るといような状態ができていますので、これからはそういう状態が望ましいん

じゃないかなと思います。

したがって、青葉シンボルロードは両側、歩道も含めて一体の広場として、その間に車の通行帯が、車が通行できるという状態が望ましいんじゃないかなと思っています。

先ほどご紹介ありましたように、社会実験のときでは車を全く通行できなくしましたので、やはり、それについては、まだ現時点ではそこまで交通体系変わっていませんから、やはり非常に支障があるんじゃないかなと思っていますので、将来それがどうなるかは別にして、当面の間はそういう全面通行規制のような形ではなくて、人と車が共存できるような広場のあり方を検討していきたいと思っています。

これからどういう整備をしていくかということですが、来年度、令和 7 年度から基本設計に着手をして、8 年度に実施設計、早ければといいますか、早くないといけないんですけれども、9 年度からは工事に着手をしていきたいと思っています。いっぺんに全部やるということではなくて、清水、ごめんなさい、静岡庁舎から昭和通りまで 7 街区ありますし、それから昭和通りから常盤公園まで 3 街区ありますので、それらの街区を分けながら、順次進めていくということをしていきたいと思っています。

それから、交差する道路については、やはり、今も通行が非常に重要ですので、それについてどういう方法がいいのか、これについては皆様と、地域の皆様とよく話し合いをしながら決めていきたいと思っています。荷下ろしが必要というので、例えば、先ほどのカンヌの例で申しますと、例えば、朝のうちは通行が自由になっていて、途中から制限するポールのようなのが出てきて、それで車が通れなくなるとか、そういうようなこともありますので、そういった時間帯で変えるということもあるし、あるいは先ほどのように、人が中心で車が遠慮しながら取りに行くような状態とか、いろんなことが考えられますので、これからしっかりと基本設計をしていきたいと思っています。以上です。

◆毎日新聞

はい。少し確認ですけど、青葉ロードの方向で走っている道も、遠慮しながら、車が遠慮しながら…

◆市長

常盤公園方向に行っている道ってことですか？

◆毎日新聞

はい。

◆市長

そうですね。遠慮しながらというか、逆に言ったら気を遣うんですよね。人が横を歩いているので、そういう状態ですね。で、今のような歩道、車道が完全に分離していると、ここは車道ということで、そのまま、それなりのスピードで走りますけども、段差がない状態で横に人が歩いていると、もう少し気をつけて走りますので、そういった状態がいいかなと思います。

ただし、安全性の問題がありますので、その辺りは警察との協議も必要ですし、警察というか公安との協議が必要ですので、これからしっかりと設計していきたいと思っています。

◆毎日新聞

この間の社会実験のときにあったような、車道部分にまでテーブルを置いたりしてみたいな、ああいう使い方ではなくなるだろうと。

◆市長

それもあるかもしれません。時間帯によってはですね。時間帯によってそうやった方が賑わうということであれば、そういうこともあり得ると思います。全部やるんじゃないくて、ごく一部だけそうしてみるとか、いろいろあると思いますが、ただ、今、もうすでにいろいろお店がありますので、そこで、車が通行できないということは問題になりますので、長い目で見てこうやりたいんだけどということを示しながら、徐々に将来の目指す姿に順応していくと言いますか、変わっていくような形ですね。急に今日から通行止めにするみたいな形ではなくて、もっとこう、やわらかい形で階段を上っていくような進め方をしたいと思っています。

◆毎日新聞

1 個だけ。これも、これから考えるとおっしゃいましたけど、交差する方向は全て一方通行でもあるんで、入ってきた車が逃げれなくなるとか、そういう問題もあると思うんですけど、一方通行で構成されている、ああいうあり方自体までいじるというようなことってありうるんでしょうか。

◆市長

一報通行はもう一方通行しかないと思います。だから、どういう交通体系にするのがいいかですね。あと時間帯でどう変えるのかっていうこともありますので。例えば七間町のところでもそうですけど、呉服町もそうですけど、完全にあれば閉じているわけです。でも、それはそれで十分今順応されているわけで、だから

徐々にそういう方向に持っていければいいかなと思っています。

◆毎日新聞

はい、ありがとうございました。

◆司会

はい。では、ただいまの幹事社質問に関連したご質問をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、その他のご質問をお受けしたいと思います。その他のご質問ある方、いらっしゃいますでしょうか。先に静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

すいません、静岡新聞です。すいません、ちょっと話が戻って、ナショナルトレセンの関係でちょっとお伺いしてもよろしいでしょうか。まず、今の清水ナショナルトレセンの収支の状況をちょっと教えてもらいたいんですけども、指定管理料が 1.8 億円入っているってことは、施設の収支単体で言うと 1.8 億円ぐらいの赤字の状態だということなんでしょうか。

◆市長

1.8 億円の赤字というのは、市の支出ですね。ここは、まちづくり公社等が指定管理者になっていますので、そうするとまちづくり公社は、ここの施設の運営で赤字になっています。まちづくり公社は、全体として令和 6 年度も大きな赤字が発生する見込みですけれども。

ですから、今の状態で言うと、ちょっと正確に言うと、ナショナルトレーニングセンターを運営するために、市は毎年 1.8 億円、まちづくり公社に指定管理料を払っています。まちづくり公社がそれで黒字になればいいんですけども、黒字の状態ではなくて、赤字運営になっているということです。

したがって、1.8 億円以上の実質的な赤字が施設運営では発生をしているということになります。

◆静岡新聞

ありがとうございます。それで、今回新しく公募するときの条件というか、それは、さっき市長がおっしゃったように、指定管理料を支払わずに、運営する事業者が独立採算できるような、それをもう条件にして公募するってようなイメージなんでしょうか。

◆市長

はい。ただ、今すぐ施設を改修できるわけではありませんので、多分二段階と
いいですか、段階的な支払いになるんじゃないかと思いますけども、もう令和
8年度ですから、1年しかありませんので、急にその運営を変えて、指定管理
料を払わなくて、かつ運営しても黒字になるような状態にはならないと思い
ます。ですから、令和8年であるとか令和9年ぐらいいは、何らかの形で委託料に
なるか、どういう費用になるかわかりませんが、運営費を市が負担する。その
間に施設を改修して、例えばですけど、今レストランが相当赤字になっています
ので、レストラン部分をどうするか。それから宿泊施設ですね、例えばホテルを
建てて、その宿泊で収益を上げていく。一つの例で言うと、東に時之栖さんが
ホテルと、それからラグビー場をはじめ、運営されていますね。スポーツ施設を
運営されて、それで収益を上げておられるわけですから、そういったイメージが
できると思います。

ただし、それは時之栖さんもずっと長い間経営努力をされて、今のような状態に
なっているわけで、いきなり施設の運営者が変わって黒字転換できるとは限り
ませんので、その最初の段階は市が少しお払いをして、その後は施設整備なりの
サービス改善によって、市が費用を払わなくても黒字で事業運営ができるよう
ような提案にしていきたいと思っています。

◆静岡新聞

すいません、最後の確認で、事業者側から、改修の必要性だとか、敷地改修して
新築とかそういう話、提案を受けてそれを採用する場合は、そういった改修とか
に関わるハード面の費用っていうのは、市が負担するっていう認識でいいん
でしょうか。

◆市長

それもいろいろあると思います。例えば先ほど申しました西河内小学校です
けども、西河内小学校については、国の交付金を入れて、それで改修をして、
改修した後はこどもの遊び場と宿泊施設、これを運営していただく。ですから、
そこは市は費用は出さないわけです。それによって、元の状態でこどもの遊び場
を今の状態で置いておくと、その運営費用をずっと市が出すという形、コスト
がかかる形になりますけども、そうやって少し改修をして運営委託すること
によって、利益が上がる施設になるわけです。

そういったものを目指していますけども、ここも同じようなイメージで、ナショ
ナルトレーニングセンターもそうやって、いわゆるコストセンターからプロ
フィットセンターですね、費用を、赤字で費用を負担補填しないといけないとこ

ろから、黒字になって費用を補填しなくても、市が費用補填しなくても自律的に運営できるような施設、さらに言うと収益が上がる施設、それに変えていきたいと思っています。

◆司会

はい、その他、いかがでしょうか。先に中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

明日告示、23日投開票を迎える静岡市議選について伺います。難波市長就任後、初めての市議会の改選を迎えますけども、市長もかねてから議会と行政は車の両輪だとおっしゃっていますけども、改選後の議会にどのようなことを求めますか、どうなってほしいと思いますか。

◆市長

はい。改選後の議会ということですが、まずは、ぜひ投票に行っていただきたい、投票所に足を運んでいただきたいと思います。前は投票率が40.1%でしたので、これはあまりにも低すぎますので、これを高めることが必要だと思います。新たな取り組みとして、マークイズ静岡で期日前投票ができるようになりましたので、そういったことも活用しながら、ぜひ投票いただきたいと思います。改選後ですけども、議会とはいろんな形で意見交換をさせていただいて、良いものは良い、悪いものは悪いということで、いろいろ指摘をいただいていますので、そうやって活発な意見交換をし、そして前に進むことですね。悪い点を指摘するのは重要ですけども、その上でどういうふうの良いものに変えていけるかという観点で、しっかりとした議論ができればいいかなと思います。そういった点で、そういう政策であるとか、政策の執行、政策形成と政策執行とよく言っていますけども、政策作りであるとか、あるいはそのやり方について、本当に率直な意見交換をできる方々が当選されるといいかなと思っていますけど。

◆中日新聞

市長もまもなく就任3年目に入りまして、任期の折り返しを迎えることになりますけども、議員さんと公式・非公式の場で多くの要望を受けていることは思いますけども、新しい市議会に、現状から変わってほしいと思う部分、足りないと思う部分はありますか。

◆市長

うん、なかなか厳しい質問です。厳しいというか、答えにくい質問ですけども。今、変革の時期ですので、つまり静岡市はこれまでの延長上で何も対策をとらなければ、将来人口が大幅に減少するという状況がありますので、過去の延長上でやる取り組みでは、明るい未来は、静岡市に明るい未来はない、あるいは静岡市民にとっても夢や希望がかなえられない街になってしまうということをお大変心配しています。

したがって、とにかく、しがらみに捉われないで、過去の延長上を守り続けようというようなことではなくて、変えるものはどんどん変えていくというような形で意見交換、議論ができればいいかなと思っています。

◆中日新聞

市長がご自身の選挙のときには、最大会派の自民党をはじめ、共産党以外の多くの会派が選挙期間中、市長を全面的に支援したと思うんですけども、市長は今回特定の会派の応援演説や支援に入るご予定ってというのはありますか。選挙期間中に。

◆市長

はい、どこにも入る予定はありません。

◆中日新聞

それは友人としても一切ない。

◆市長

友人としてもありません。

◆中日新聞

最後になんですけど、一部の議員さんが、今年に入って市政報告会をやってらっしゃいまして、SNS などによると、市長がそこに登壇して、住民の方、支援者の方を前に説明する場面もあったようですけども、それは市長としての議員さんへの支援の意思表示というよりは、市民に、市政について市長から語る場というふうに位置づけてらっしゃいますか。

◆市長

はい。市民に対してということは、報告会じゃなくて、実は最近、非常に多くの講演依頼をいただいていますので、講演については積極的に出るようにして

います。

そこで話をすると初めて聞いたよ、というようなことが非常に多いので、そういった直接説明する機会というのが、非常に重要ではないかなと思っております。ついでと言ってはなんでもございますけれども、今、講演費用をいただいております、普通は、講演費用は個人収入になるんですけども、今は市の収入にしておりますので、10万円ぐらいは最近収入が入ったかなと思いますが、たいした収入ではありませんけれども、市民集会のようなのは講演料なしで、ちょっとした団体ですね、そういうところで、講演依頼を受けたときは説明するいい機会ではあるんですけど、講演料をいただいて、それを市の収入にするという形にしております。

◆中日新聞

それは1回あたりおいくらぐらいなんですかね。

◆市長

先方の負担によりますけども、1万円のことがあれば、5万円のこともあるということです。

◆中日新聞

10万円というのは、今年に入ってそのくらい稼がれたということで。

◆市長

そうですね。稼いだというほど胸を張るほどではないんですけど。はっきり申し上げますと、講演をするときに資料をいっぱい作るわけですけど、原案はもちろん自分で作りますが、清書といいますか、資料作りは市の職員にやっていただいておりますので、極端に言うと市の職員にお願いをした講演資料で、私が個人収入するというのは明らかにおかしいですから、そういった面でも、それは公務としてやっているということです。公務としてやっているの、公的な収入として入れるという形で今やっています。

◆中日新聞

ありがとうございました。

◆司会

その他、いかがでしょうか。先に、テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。お願いします。市議選の件について、先ほどの質問と少しかぶるところがあるんですが、ちょっと新聞などの一記事では、難波市長の就任後からの政策の立案のスピードだったり、市民と直接話をするという姿勢から、やっぱり市議の存在感が少し薄れているというような意見も上がっています。こういったことについては、どのようにお考えでしょうか。

◆市長

いや、そんなことはないと思いますけれども、市議会議員の皆さんともいろんな形で議論をさせていただいていますので、市議会議員の皆さんは、そこに地域の住民の皆さんとか、市民からいろんなことを聞かれていますので、そこで、今こんなこと言われているよとか、こういうところが課題だと言われているという話がありますので、それは非常に参考になると思っています。

それから、やる内容についても、事前に議会の議員の皆様には、ご説明をすることにしています。ちょっと、その直前になって、どんどん、どんどん事情が変わりますので、例えば、今回の市民文化会館もそうですけど、突然入札不調になったりすると、すぐさま新しいやり方に変えていかないといけないので、そういった面で勝手にやっているみたいな印象は受けられるかもしれませんが、それは政策執行に関わる場所ですので、議員、議会から承認をいただいた予算の範囲内で、良い執行に、良い実行力にする、実行内容にするために、迅速にやっているという状態だと思います。

ですから、政策についてあまり議論していないということはないと思います。

◆テレビ静岡

政策の立案だったり、実行について、ある程度、議会の方とは緊張感を持ってことを進めているというような認識ですか。

◆市長

緊張感はないと思いますね。緊張感を持ってとよく言われるんですけども、車の両輪だとか、二代表制だから緊張感を持ってと言われるんですけど、私、ずっと共創、共に創るということを言っていますので、共に創るというところの一番の基本は共感なわけですよ。共鳴とか共感ですよ。いや、それいいよね、一緒にやろうかっていうところが一番基礎ですので、そこで何も緊張感を持つような必要はなくて、例えば議員からこういうことをやった方がいいと思うよって言って、ああ、そうですよねって言えばやるし、あるいは、こちらでこういうふうにした方がいいと思うんだけどもってといって議員に相談して、

それいいよねって言えばそれをやるしということで、それでいいんじゃないか
と思います。

十分でないところですね、例えば清水の庁舎ですね。清水庁舎についての耐震性
の評価であるとか、そういったところについては、いろんなご意見いただきます
から、そこは緊張感を持ってというよりも、しっかりとした根拠を持って、
ご説明するというところが大事だと思います。

したがって、もう一度繰り返しますけど、あまり緊張感を持ってはやっていない
ですね。

◆司会

はい、その他、いかがでしょうか。静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。ちょっと話題が変わってしまうんす
けども、関西万博の関係でお伺いをさせていただきます。大阪関西万博について、
今日で開催まで1ヶ月ということになりましたが、県のブース出展であるとか、
県内ゆかりの企業のパビリオン出展もありますが、まず万博に期待すること、
願うことなどありましたら、ちょっとお伺いさせていただきます。

◆市長

はい。社会変革という、社会が大きく変わる時期ですね、まさに大変革期だと思
っていますので、ああいった形で大々的に世の中変わるんだ、こういう時代を
目指すべきだということをテーマとして、世界に情報発信する、あるいは世界の
方々が来ていただくっていうのは、非常に大事だなと思っています。

その機会を利用して、県と連携して、ガストロノミーツーリズムであるとか、
観光面を中心に、我々の情報発信をしていきたいと思っていますので、ただ、
それも当然ですけども、今まで通りの観光であったり、あるいは食文化ではなく
て、新しい形の食文化を提案するという社会変革があるような、食文化を提案
していくというのが大事じゃないかなと思っています。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。静岡ゆかりの企業のパビリオンといいますと、バンダイ
さんがパビリオンの出展を予定されていまして、会場にも実物大のガンダム像
が展示されるということになっていきますけれども、改めて、まずガンダム像の
静岡への誘致に関して、改めてになってしまうんすけども、市長の思い、意気
込みなどありましたら、お伺いさせていただきます。

◆市長

もう、ぜひ誘致をしたいと思っていますけれども、これからの時代で、もちろん大阪万博であるものをとということもありますけども、昨日、ある会社と話をしていたら、プラスチックの、静岡市はプラスチックのリサイクルを、これからやられますよねと、やりますよねと。そうすると、プラスチックのリサイクルでガンダム像を作ったらいいんじゃないですか、というような提案もありましたし、プラモデルの聖地という模型の世界首都ですので、そういった形でプラモデルから出てきたプラスチックを使って、何か象徴的なものを作っていくとか、いろんな取り組みがあると思いますので、そこについてはバンダイさんと、いろいろと意見交換をさせていただきたいと思っています。

◆静岡朝日テレビ

冒頭のお話にもありましたが、万博の場ですと世界にアピールをする場ということになりますけれども、もし仮に静岡にガンダム像が出来た場合、世界にアピールする、インバウンドという観点でどのようなプラスがあるというふうにお考えでしょうか。

◆市長

中身は大事なんですけど、やっぱり知名度ですよ。おおっという感動とか、ワオッとかいう感動ですけど、おお、すごいなっていう。例えば、新幹線で富士川の陸橋を渡るときですね、みんなだいたい富士山をパシャパシャ映しますけど、やっぱり静岡に富士山ありっていうのは当然ですけども、そういう感動を生むわけですよ。ですから、新幹線を通っているときに、ガンダム像、巨大なガンダム像がどこかに見えて、おおっと言って、このまちに興味を持っていたかくということだけで、まず効果があると思います。

その後は、ちょっと静岡に行ってみようかということになって、静岡に行ってみると、いやこれは実にいいなというようなまちづくりをしていくのが大事ですので。ただ静岡、やっぱりいいものはあるんですけど、世界から、静岡はこれだというイメージがないので、ガンダム像を通じて、静岡のイメージと言いますか、知名度が上がっていくっていうのは、ものすごい大きなことだと思います。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。先に、SBS さん、お願いいたします。

◆SBS

SBS です。日本平動物園について伺いたいのですが、先日オランウータンのジュリーが亡くなってしまい、ここ数年でゾウやキリンなど人気動物の死が相次いでいると思います。まず、この現状について、市長はどのように考えられますか。

◆市長

はい。人気の動物が亡くなっていることについては、多くの市民、あるいは多くのファンの皆様ですね、大きな悲しみを感じられていると思います。私も大変驚きましたけれども、大変悲しんでおります。動物園も、これまで飼育環境については努力をしてきていますけども、生き物ですので、やはり、この死というのはやむを得ないところはあるわけですけども、やはり動物たちが健康で、安心して、楽しく暮らせるような環境の整備ですね。そして、健康管理ですね、これもしっかりやっていきたいと思っています。

◆SBS

それで、今、死が相次いでいるっていったところで、増やす策や方法などっていうのもあるのでしょうか。

◆市長

はい、やはり人気の高い動物の飼育展示というのは、動物園には欠かせない、動物園の営業の問題というよりも、来ていただいた、例えば、お子様に楽しんでもいただくためには、やはり人気の高い動物の飼育展示が必要だと思っています。ただ、ゾウのシャンティ、あるいはキリンのダイヤのような大型の動物ですね。そして、オランウータンのジュリーは猿類になりますけども、こういった大型動物とか猿類ですね、これは検疫とか、あるいはいろんな動物愛護の関係・課題、今、輸入という形が非常に困難になってきています。

したがって、国内で繁殖した動物ですね、その譲渡を受けて飼育展示というのが基本になると思っています。JAZA という、日本動物園水族館協会というのがありますけれども、そこはいろいろ計画管理をされていますので、そういったところとしっかり、協会に加盟をしている園がありますので、みんなで協力してやるしかないかなと思っています。

もちろん、静岡で繁殖した動物を他園に譲渡するということも含め、お互いに

協力していくというのが、今できることかなと思っています。

◆SBS

最後に、今後の日本平動物園のあり方などについては、どのように考えていますか。

◆市長

やはり人気のある動物園ですので、これからも皆さんに楽しんでいただける、喜んでいただける施設にしたいと思いますが、これは今日、今日といいますか、昨日、外郭団体に関する外部監査がありましたけど、日本平動物園についてもかなり指摘を受けています。やはり、収益をもっと上げていく努力ですね、魅力を高めるとともに収益を上げていくという努力が必要ですので、例えば、あそこもレストランがあったりしますが、あれでいいのかっていうことも含めて、いろいろ経営改善はしていかないといけないと思っています。

ただ、経営改善をすることが園の持続可能性になって、それが市民の皆様にお楽しみいただける施設、持続的にのお楽しみいただける施設になりますので、経営努力ということをしっかりやっていくこと、これが必要だと思います。

もう一つ、飼育環境、あるいは健康管理ですけども、健康管理については動物園はしっかりやっていると思いますけれども、やはりこういう亡くなった状況を踏まえて、今まで通り、今まで以上に健康管理だとか、あるいは行動観察を行って、飼育管理について飼育環境をより高めていきたいと思っています。

亡くなったことについては、原因がちょっとわからないところもありますけれども、ジュリーですね、ついては調査中ということですけども、今のところ特に問題があった、健康管理に問題があったようなことではないように感じておりますが、いずれにしても改善、改善という努力をしていきたいと思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

はい。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

日経新聞です。すいません。話前後して申し訳ないんですが、清水ナショナルトレセンについてお伺いいたします。今後のスケジュールとして、簡易ヒアリング開始が3月14日というふうになっております。すいません、聞き逃しだった

ら大変申し訳ないのですが、これはすでに事業者側からの提案があつてという話なのか、何について、これ簡易ヒアリングするのかっていうと、誰に対して、何に対してということについて、まず一点伺いしたいです。

◆市長

はい。事業者から提案があるわけではありません。ですが、あそこ何とかならないかなという声は、いろいろいただいていますので、それは、運営をこうしたいということではなくて、施設が悪いという声をいっぱい聞いています。さっき言った宿泊施設の問題、それからグラウンド、天然芝二面なので、なかなか大きな大会もやりにくいとか、いろいろありますので、そういったことについて、そうおっしゃっている方々は、問題だけ指摘しているわけじゃなくて、こうしたらいいんじゃないかという提案をお持ちの方がいらっしゃいますので、運営方法じゃなくて、施設はこうあるべきだという話はいろいろいただいていますので、まずは簡易ヒアリングというのは、そのあたりが先になるかなと思います。繰り返しになりますけども、運営方法についてのご提案というよりも、やっぱりもっとこうした方がいいんじゃないかというあたりが、まず最初のヒアリングになって、そのときに自分ならこういう運営をするんだけどというお話を、たぶんいただけるんじゃないかと思いますので、まずはその辺りですね。それを踏まえて、なるほどそこに問題があるのかとなると、本格的ヒアリングということをして 1 ヶ月後ぐらいから始めたい、こんなスケジュールで考えています。

◆日経新聞

すいません。もう一点、この資料の中に必要な施設改修じゃないかな、どこだっけな。一個前のページか、すいません、これだ。課題のところにですね、天然芝グラウンドが一定期間芝の養生により使用ができないため、収益に繋がらないという、先ほど市長もおっしゃったようなところ、内容があるんですが、アマチュアのスポーツ選手、特にサッカーやラグビーのフットボール競技の選手に対して、プロの施設ではない民間の、民間、これは半官の、官の施設ではありますが、において、天然芝のグラウンドが使えるというのは非常に貴重な面であり、人工芝のグラウンドは特に育成年代の選手に対して、膝や足首に対する怪我のリスクも高いというふうな報告もあります。市長は収益に繋がるかどうかと、いわゆる高いレベルの、ナショナルトレセンですから、選手を受け入れる施設として、人工芝グラウンドがふさわしいのか、現在もありますけども、この中に。増やすことは、ふさわしいかどうかについての意見を伺えればと思います。

◆市長

清水でよく言われるんですけども、やはりちょっと戻りますけど、私は天然芝でやったことがないので、学生時代、サッカーなんかクラブチームでフラフラやっていましたが、あれだけ良い芝の上でやるのは憧れだったわけです。ですが、清水でいろいろ話を聞いてみると、いや天然芝じゃなくて人工芝の方が良いって言われるんですよ。それはなぜかという、やっぱり一年中使えないんですよ。やる期間が限られている、やる期間というか、せっかく、あそこは、例えば蛇塚のところのグラウンドが当たったのに、何かやろうと思ったら雨でしただっていうと、当分使えないみたいな話になるわけですよ。だからやっぱり、人工芝のグラウンドが必要だっていうのは、清水の皆さんからすると、清水というサッカーをやっている皆さんからすると、結構根強い声があります。ただ、天然芝グラウンドって素晴らしいですからね、天然芝のグラウンドは残した上で、今不足している人工芝のグラウンドをもうちょっと増やすっていうのが大事じゃないかなと思っています。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

すいません。先ほどとは別の件で。県が進めている浜松の県営野球場の関係でお伺いをさせていただきたいんですが、県が外部の調査会社に委託して作成してもらっていた調査書について、建設費の上振れであるとか、需要のかなり厳しい予測が含まれていたものがありますが、昨年３月に提出されてから１年近く公開がされていませんでした。

これについて、県の副知事もやられていた難波市長の目から見て、まずこの県の公開をしなかったという姿勢については、どのように映ってますでしょうか。

◆市長

いや、これはですね、何か、ちょっとなぜ公開しなかったのかよくわからないので、公開しなかったのか、公開する必要がなかったのか、あえて公開する必要がないと思っていたのか、公開しない方がいいと思っておられたのか、その辺ちょっとわかりませんので、何ともコメントしようがないということしか言い

ようがないです。ちょっと事情がよくわからないので。
知事交代の頃だったと思いますので、そういった混乱もあったのかなと想像
しますが、とにかく行政の内部でどんな事情があったのかわからないので、
ちょっとコメントは、し難いということです。

◆静岡朝日テレビ

率直に、市長としては、調査報告書については、公表するべきだったなという
ふうにお考えでしょうか。それとも…。

◆市長

公表するかどうかはいろいろあって、例えば、東静岡のアリーナについても、
年間の利用計画がどの程度かっていうのを我々は公表していませんが、それは
後々のこれからの公募の中でいろんな影響が出るので公表していないという
ことがありますので、公表しないときは理由を明らかにして公表しないという
のが大事だと思います。

だから、何でも公表すればいいというものじゃなくて、それによって公的な損害
が発生する可能性がある場合については、それは情報公開条例でも、そういう
ふうに書かれていますので、そのあたりを考慮した上で、基本は公開、ですけど
ある条件のもとに公開をしないこともありうるということだと思います。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、以上で本日の記者会見
を終了させていただきます。

◆市長

はい。ありがとうございました。

◆司会

ありがとうございました。次回は、3月28日金曜日、11時からの予定となり
ます。よろしくお願いいたします。

その前に、17日にも臨時の会見をやらせていただきますので、そちらもよろしく
お願いいたします。